

〔付録 1〕

開催レポート

ヤングケアラー支援関係団体による 情報交換会@兵庫県

「ヤングケアラー支援関係団体による情報交換会@兵庫県」の概要

● 開催趣旨

兵庫県内におけるヤングケアラー※へのピアサポートの取組を推進するため、先進的な活動団体間による情報交換会を開催し、①団体間の情報共有や連携を促進するとともに、②本レポート作成を通じて活動ノウハウ等を広く発信し、支援団体の育成・発掘を図る。

※「ヤングケアラー」の対象年齢としては、18歳未満の子どものみならず、概ね30歳台までの若者ケアラーを含みます。

● 開催内容

- ・ 日 時：令和7年3月18日（火）14時～15時30分
- ・ 会 場：オンライン会議
- ・ 参加団体：9団体

NPO法人 ふうせんの会

尼崎ユースコンソーシアム

(一社)兵庫県社会福祉士会

尼崎ティーンズ応援ネットワーク

(株)チャーム・ケア・コーポレーション

神戸諏訪山ふれあいのまちづくり協議会

NPO法人 こうべユースネット

NPO法人 ASUネット

豊岡市在住Aさん（団体設立調整中）



レポート① NPO法人ふうせんの会

(大阪市中心区・兵庫県)

〔活動内容〕

■2019年からヤングケアラー支援に専門的に取り組んでいる。

■ヤングケアラーが当たり前「生きる」ことができる社会、そしてヤングケアラーの価値が「生きる」社会を目指して活動。

■当事者スタッフによるピアサポートがメイン。

■2か月に1回、当事者や元当事者の集いの会を開催（オンライン参加も可能）。

■大阪市事業として、中高生向けのオンラインサロンや、お花見・BBQなどのレスパイトイベントを実施しているほか、キャリア支援（はたらく部）として社会見学等を実施。

■兵庫県事業として、オンライン交流会「兵庫ふうせんの森」を今年度から新たに実施。

〔運営上の工夫・配慮・ポイント〕

●広報において、対象年齢や対象者によって書きぶりを変えている。

●中高生向けの案内では、本人への配慮として、「ヤングケアラー」とは書かずに「家庭のことで忙しい中高生」などと記載する。

●ただし、学校向けには周知啓発を兼ねてヤングケアラーと記載する場合もある。

●一方、20～30代の若者ケアラーや元ケアラー向けには「ヤングケアラー」や「若者ケアラー」と書くと、自覚のある人に参加してもらえる。

●大阪府事業で「校内居場所カフェ」を運営しているが、そこではヤングケアラー支援の視点も持って取り組んでいる。話を聞く中で、これはヤングケアラー状態かな？と思われる生徒がいれば、関係性を築き、ヤングケアラー相談事業に繋ぐようにしている。

レポート② 尼崎ユースコンソーシアム

(尼崎市)

〔活動内容〕

- 青少年支援を目的とする共同事業体であり、月に1回、当事者の交流会を開催。
- 子どもたちが日常のケアから離れられ、リフレッシュできるような場所を提供できるように心がけている。
- 対面とオンラインのハイブリッド形式としている。最初から対面参加が難しい場合は、まずオンライン参加で関係性を築き、対面参加へとつなぐようにしている。
- 午後1時から開始。まずはみんなで昼食を取り、参加者の心の距離を近づける。その後で自由参加のトークやイベントの時間を設けている。
- イベントは屋外ピクニック、室内餃子パーティなどを企画している。
- 夏休みの日記に書けるイベントが欲しいという声から、来年度は遠足イベントとして大阪万博に行く予定。

〔運営上の工夫・配慮・ポイント〕

- ピアサポートを重要視しており、スタッフや当事者同士の対話を重ねることにより、“自分だけじゃない”という感覚を持ってもらい、横のつながりができるよう心掛けている。
- 小学生はワイワイと過ごしたいが、中学生になると静かに過ごしたい子もいるため、それぞれ場所を分けている。
- これまで土曜日午後で実施していたが、部活があると参加できないという声もあり、来年度から日曜日午後に変更する予定。
- 小中学生は一人で参加することが難しい場合もあるため、希望者にはスタッフが自宅まで行き、タクシー等を利用して送迎することもできる。

レポート③ (一社) 兵庫県社会福祉士会

(尼崎市)

〔活動内容〕

■2022年から県委託事業としてヤングケアラー・若者ケアラー相談窓口を運営している。

■ピアサポート事業として、ヤングケアラーの子どもや兄弟（主に幼児・小学生・中学生）を対象に、「つどい場けあわーく」を開催（日曜日10～15時・2ヶ月に1回程度）

■本会の阪神ブロック会員や尼崎市内の福祉専門職（SSW（スクールソーシャルワーカー）・CSW（コミュニティソーシャルワーカー）・ヘルパー管理者等）をメンバーに企画・運営している。

■午前中にみんなで楽しく食事をつくり昼食を取る。午後からは創作活動（クリスマス会等）や自由遊び（水鉄砲遊び等）を行う。

■今年度は外出企画として、武庫川廃線散策や大阪市立科学館見学も行った。

■広報は、学校のSSWや社協のCSWに協力いただき、学校や地域にチラシ配布等を行っている。

〔運営上の工夫・配慮・ポイント〕

●ポイントの一つ目は、やはり子どもにとって楽しく・自由な時間にすることが大事。ケアから安心して離れられる時間を提供したい。

●子ども同士も繋がり、新たな出会いの場としても機能している。

●2つ目が、ヤングケアラーや保護者の負担軽減という観点。参加するヤングケアラーや兄弟へのレスパイト支援だけでなく、保護者にとっても子どもたちから離れられる時間を確保できる。

●3つ目が、地域関係機関と保護者との良好な支援関係の構築につながる点。保護者に、支援者と子どもたちとの楽しい交流場面を見てもらうことにより、保護者との信頼関係を構築し、保護者から相談をもらうこともある。

●また、多様な支援関係者が参加することにより、多機関連携の促進にも有効。

レポート④ 尼崎ティーンズ応援ネットワーク (ティーンズビストロ)

(尼崎市)

05

〔活動内容〕

■支援関係者有志の団体であり、元々はヤングケアラーの集いの場を開催していたが、ある程度元気が無いと参加が難しいため、そんな子どもでも生き生きと参加できる場を考えていた。

■そこで、大人の支援者がフォローしながら、子どもたちが料理や給仕スタッフとして自ら働く「ティーンズビストロ」を開催している。

■主に中高生を対象として、家庭環境が厳しい子どもや、家庭や学校に居場所がないような子どもを誘っている。

■地域の人や支援者に来てもらって食事代をいただき、それを食材費や子どもたちへの報酬に充てている。そのほか県補助金も活用している。

■料理はカオマンガイなどのあまり馴染みのないものとしている。理由は、子供たちが「こんな作れた！」と誇らしく思えること、そして食べ慣れていない参加者が味の評価をし得ないため。

〔運営上の工夫・配慮・ポイント〕①

●一方的な支援ではなく、以下の点を重視

①子どもたちが活躍して認められるという経験を持てること。

②子どもたちや家族をエンパワーメントし、元気づけること。

③子どもたちが家族以外の大人と安定した信頼関係を築けること、そして同じ境遇にある同年代と出会うこと。

●従来の集いの場に比べて、リピーターが多く定着率が高い。また参加者が新しい人を誘ってくれ、どんどん増えていく。

●子ども食堂等を紹介しても来てもらえない子どもでも「人手が足りないから手伝って」と誘うと、関係性があまり無くても、或いはそんなに元気がなくても、行ってみようという気になってくれやすい。

レポート④ 尼崎ティーンズ応援ネットワーク (ティーンズビストロ)

(尼崎市)

〔運営上の工夫・配慮・ポイント〕②

- 募集にあたり、“ヤングケアラーを対象”と明示することはしない。そうしてしまうと、家族から同意をもらうことが難しくなるし、例え同意をもらえても、家族を傷つけてしまう。
- 一方、誰でも参加OKとすると、元気な子ばかりになり、しんどい子が来れなくなる。そのため、募集にあたっては広く周知するのではなく、支援者（SSW・地域関係者・児童支援機関等）が気になる子どもや家庭に直接「こんな人あるけど、こーへん？」と個々に呼びかけるスタイルとしている。
- 支援者には、地域に居場所がない子どもや元気が無い子どもを対象に、「手伝って欲しい」という趣旨を伝えて子どもや家族を誘ってもらうようにしている。
- このビストロは家族にとっても受けが良い。子供食堂の場合は“困窮支援”と思われて反発が多いが、ビストロで料理などの仕事をお願いしたいと言うと、支援拒否傾向の家庭でも「一回行ってみたらえーやん」と子どもの参加を後押ししてくれる。
- 逆境体験を持ち家庭環境がしんどい子どもでも、ビストロには行ってみたい・活躍してみたい・みんなの役に立ってみたい、という思いを持っていることを実際にやってみて大いに感じた。
- この三年間の間に、就学を諦めていた子どもが、ビストロで高校生と話す中で、「私も高校行こうかな」と思ってもらえたり、また、家族の方が不登校の子どもの活躍する姿を見て、「うちの子はこんなこともできるんや！こんな力あったんや！」と思ってもらえることにより、元気になってもらえたり、支援を受け始めたりするような、とても大きな変化があった。

レポート⑤ チャームケア・コーポレーション（こどもgaカフェ）

（尼崎市・神戸市）

07

〔活動内容〕

■有料老人ホーム等を運営する民間会社において、社員有志の取組を契機に、**2021**年から行政や地域と連携してヤングケアラー支援に取り組んでいる。

■当社の神戸市と尼崎市の2か所の有料老人ホームの交流スペースを会場として、「こどもgaカフェ」を開催している。

■主に小中学生を対象として、ティーンズビストロと同様のスタイルで、子どもたちが自ら料理や給仕を行い、それをホーム入居者に食べていただいている。

■食事の最後には、老人ホーム入居者から子どもたちへプレゼントを送っている。

■尼崎では8回開催しており、子どもたちと入居者がとても仲良くなっている。「背が伸びたね」という声かけとか、継続して参加する子どもたちの変化を感じ取ってくれるような、良好な場となっている。

〔運営上の工夫・配慮・ポイント〕

●カフェ開始前にミーティングや自己紹介等を行うことにより、アイスブレイクの時間を設置。

●しんどい環境の子どももいるため、体調にに応じていつでも休憩OKとしている。

●子どもたちにとって仕事体験の場となるだけでなく、老人ホーム入居者との多世代交流の場となっていることも大きな意義。

●食材費や子どもへの報酬については、当社負担のほか、参加した入居者の参加費や県補助金等を充てている。

●民間企業単体では、困難を抱える子どもや家庭への支援を広めていくことは難しいため、行政や地域関係者と連携しながら、今後も取組を進めていきたい。

レポート⑥ 神戸諏訪山ふれあいのまちづくり協議会（こどもgaカフェ）

（神戸市中央区）

08

〔活動内容〕

■ティーンズビストロのようなスタイルのカフェを神戸でも開催するにあたり、地域としても支援に携わりたいとの思いから参加している。

■参加者への声かけにあたり、地域で把握しているしんどい子どもへの声かけや、当日の支援スタッフとして運営に協力している。

■当協議会では子ども食堂を運営しており、その中で気になる子どもたちを中心にカフェに誘っている。

〔運営上の工夫・配慮・ポイント〕

●参加者の呼びかけにおいては、地域のほか、神戸真生塾（子ども家庭支援センター）やSSWなど、支援関係者と連携して行っている。

●ヤングケアラーなど家庭の問題で困っている子どもについては、やはり地域が目配り・気配りしないと見つけにくい。

●そのため、何らかの観点で地域が支援に関わらないと、どこかで繋がりが切れてしまう。地域と支援者が連携して取り組まないと、この問題は解決しないと考えている。

●当協議会全ての人がこの活動に関わっている訳ではないので、定例会等において定期的に本取組を紹介し、協議会の全体で本取組の共有を図るようにしている。

●子どもや家庭を支援するというよりも、住民と地域が共に生きていこう・生活していこうという姿勢がとても大事だ。

レポート⑦ NPO法人こうべユースネット

(神戸市中央区)

〔活動内容〕

- 青少年育成支援団体として、青少年施設や野外活動施設の運営を神戸市委託等により実施。
- 2021年から神戸市事業として、ヤングケアラー当事者のための居場所「ふうのひろば」を開催。
(月1回・2時間)
- 前半1時間は自己紹介やレクリエーション等を行うことにより、仲間づくりや居心地の良い雰囲気づくりを行う。
- 後半1時間はグループでの話し合いや、支援員との個別相談を実施。
- 時間終了後も、参加者が話し足りなかったことを引き出すため、最大1時間延ばすことで、放課後タイムを大事にしている。

〔運営上の工夫・配慮・ポイント〕

- 居場所づくりにおいては、参加者に“ありのままの自分で良い”という肯定感を持ってもらうことが大事。
- また、交流の空間づくりだけでなく、参加者に役割を持ってもらい、“自分が誰かの役に立っている”と感じてもらい、元気になってもらえるような場を目指すことも重要。
- 中高生世代の参加者が少ないことが課題。学校や関係機関等にチラシを配布するが、それだけで参加につながることは少ない。
- 大人の支援者がアンテナを張り、ヤングケアラーに声かけし、連れてきてくれるという方法が一番効果的。来年度からはそこに注力したい。

レポート⑧ NPO法人ASUネット

(尼崎市)

〔活動内容〕

■当初は地域での防災活動をしており、その後商店街の空き区画を活用して、子どもたちの居場所づくりや街づくりに取り組んできた。

■子どもたちが段々と居場所に寄ってくるようになり、その中で寂しそうな感じの子がいた。話を聞いてみると、ヤングケアラーと思われる子どももあり、何か支援をしたいという思いから、ピアサポート事業を開始した。

■活動メンバーの中に2人ほどヤングケアラー経験者がおり、バザーなどのイベントを定期的に行っている。

〔運営上の工夫・配慮・ポイント〕

●最近では、居場所の中に図書室を作り、子どもたちが自由に過ごせる環境を整えた。

●当会では、生活支援サポーターや高齢者ふれあいサロン等を運営しており、そこを通じて行政等の支援関係者が子どもや若者を連れて来る。

●そうした子たちと話してる中で、この子はヤングケアラーかも？と感じる場合には、支援をする側・される側という関係性ではなく、「我々是一个のチームで仲間だよ」と思ってもらえるような接し方を心掛けている。

●民生委員等の地域関係者の中には、支援の必要性をまだ十分に認識されていない方もいると感じおり、今後も地道に活動していく必要がある。

まとめ@事務局（4つのエッセンス）

本情報交換会における各団体の取組内容を踏まえ、ヤングケアラー等へのピアサポート事業を推進するにあたってのエッセンスを、下記のとおりまとめました。

I 食イベントによる呼び込み・交流

- ◆ 食イベントは参加の興味が湧きやすく、また参加者全員で協力しあうことにより一体感を高めやすいことから、みんなで昼食を準備したりBBQイベントなどを実施することは、事前の参加者呼び込みや、当日の参加者交流の促進に有効です。

II アウトリーチ

- ◆ 自発的に交流会に参加することが難しい場合もあるため、募集を周知するだけでなく、地域や支援者が連携して支援を必要としている方へ積極的にアプローチすることや、参加しやすい（例：送迎サービス）・誘いやすい（例：ヤングケアラー支援を強調しない）工夫を持つことも大事です。

III 役割を持って活躍してもらう

- ◆ 交流の場において受身で参加するのみならず、参加者自らがイベントの企画を考えたり、スタッフとしてイベントを運営する機会を設けることにより、「自分が誰かの役に立っている」と感じてもらい、当事者や家族が元気になってもらえるような運営が今後ますます求められます。

IV 公的資源の活用

- ◆ 兵庫県のヤングケアラー支援グループ活動補助など、公的な補助や資源を有効に活用ください。
〔例：上記補助事業の概要〕 <https://web.pref.hyogo.lg.jp/kf03/young-carer3.html>
- ◆ また、支援にあたり事例・データ・留意点等を確認したい際は、国の参考資料等も必要に応じて活用ください。
〔例：ヤングケアラー支援の効果的取組に関する調査研究（本人や支援者インタビューのほか、支援のポイント等を掲載）〕
<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/about-deloitte/articles/news-releases/nr20240424-2.html>